



公式観光ガイド 2026

カステル・ヌオーボ

ナポリ・～から 31.50€

<https://castelnuovo.visit-tickets.com/ja/>・優先入場チケット & 公式料金



歴史 & エクスペリエンス

起源と歴史

アンジューからアラゴンへの変遷

GOOGLE 4.4 ★★★★★ 35 481 レビュー

ナポリの歴史を語る上で、カステル・ヌオーボは避けて通れない象徴的存在です。1279年、アンジュー公シャルル1世によって建設が開始されたこの城塞は、ゴシック様式の重厚な石垣で、王国の権威を示すために造られました。当初「マスキオ・アンジョイーノ」（アンジューの雄）と呼ばれ、その名は創設者への敬意と、ナポリ湾を見下ろすその圧倒的な存在感から由来しています。1282年に完成した際、これは単なる軍事要塞ではなく、王宮としての機能も備えた壮大な構造物でした。

中世を通じて、この城は政治的ドラマの舞台となりました。最も有名な出来事の 하나는、1294年に教皇セレスティヌス5世がこの城内の部屋で史上稀な辞任を行ったことです。その後、ボニファチウス8世がここで選出され、教会史に深い影響を与えました。ロベルト1世の治世下では、芸術のパトロンとして栄え、ペトラルカやボッカッチョといった巨匠たちが滞在し、文化の中心地へと変貌していったのです。

15世紀に入ると、アラゴン朝アルフォンソ5世が入城し、城の姿は大きく変わりました。彼は自身の凱旋を祝うため、フランチェスコ・ラウラーナ設計による壮麗な凱旋門を建造しました。また、大砲の脅威に対応するため、角張った塔を円形のものに改造し、弾丸を跳ね返す近代防衛構造へと進化させました。この改修により、城は中世的な居館から、より機能的な近代的要塞へと生まれ変わりました。

さらに、1486年にはフェルディナンド1世による諸侯の陰謀という暗黒の事件が発生します。反乱を企てた貴族たちがバロンズホール（諸侯の間）に集められ、罠にかけて逮捕されました。この出来事は部屋の名称に刻まれ、ナポリの王権維持における政治的駆け引きの残酷さを今に伝えています。数百年の時を経て、現在は市民博物館として公開され、過去の栄光と悲劇を静かに語り続けています。

体験

巨大な凱旋門をくぐり、内部に入ると、まず迫ってくるのは歴史的な重圧感です。厚い石壁に囲まれた空間は、外側の喧騒を遮断し、訪れる者を過去の世界へと誘います。光が狭い窓から差し込む様子は、中世の雰囲気を色濃く残しており、足元の不均一な床を踏むたびに、かつてここを歩いた王や騎士たちの存在を感じることができます。

上層階へ進み、テラスに出た瞬間、景色は一変します。ナポリ湾とヴェスヴィオ火山が眼下に広がり、海風が頬を撫でます。この開放感は、城内の閉鎖的な雰囲気との対比を際立たせ、訪れる者に強い感動をもたらします。黄金色の夕日が城壁を照らす時間帯は特に魔術的で、まるで映画の一場面にいるかのような錯覚を覚えるでしょう。



訪問の準備

実用的な情報

住所

サン・フェルディナンド地区・メトロ:Municipio (1号線)
または Vanvitelli (1号線、徒歩5分)

営業時間

季節により変動あり (4月～9月 vs 10月～3月)。日曜日の午後および祝日は休業。

料金

18歳未満の子供は無料の場合が多いです。公式サイトで詳細をご確認ください。{promo}。

所要時間

国立博物館、男爵の間を巡り、展望テラスをゆっくり楽しむには1時間半～2時間を目安にしてください。

写真撮影

貴重な作品を守るため、博物館内の展示室での写真撮影は禁止されています。歴史的なホールや屋外テラスでは撮影可能です。

対象客層

歴史愛好家や家族連れに最適です。子供たちも城壁からの眺めを楽しめますが、博物館見学には少し集中力が必要です。

アクセス方法

アクセス & 交通手段



地下鉄

: Municipio — 2 min à pied

Gianturco (13 min) · Piave (15 min)



Bus

: (bus) — 1 min à pied

Gianturco (20 min) · Piave (24 min)



Voiture

Gianturco (13 min) · Piave (16 min)



Vélo

Gianturco (16 min) · Piave (20 min)

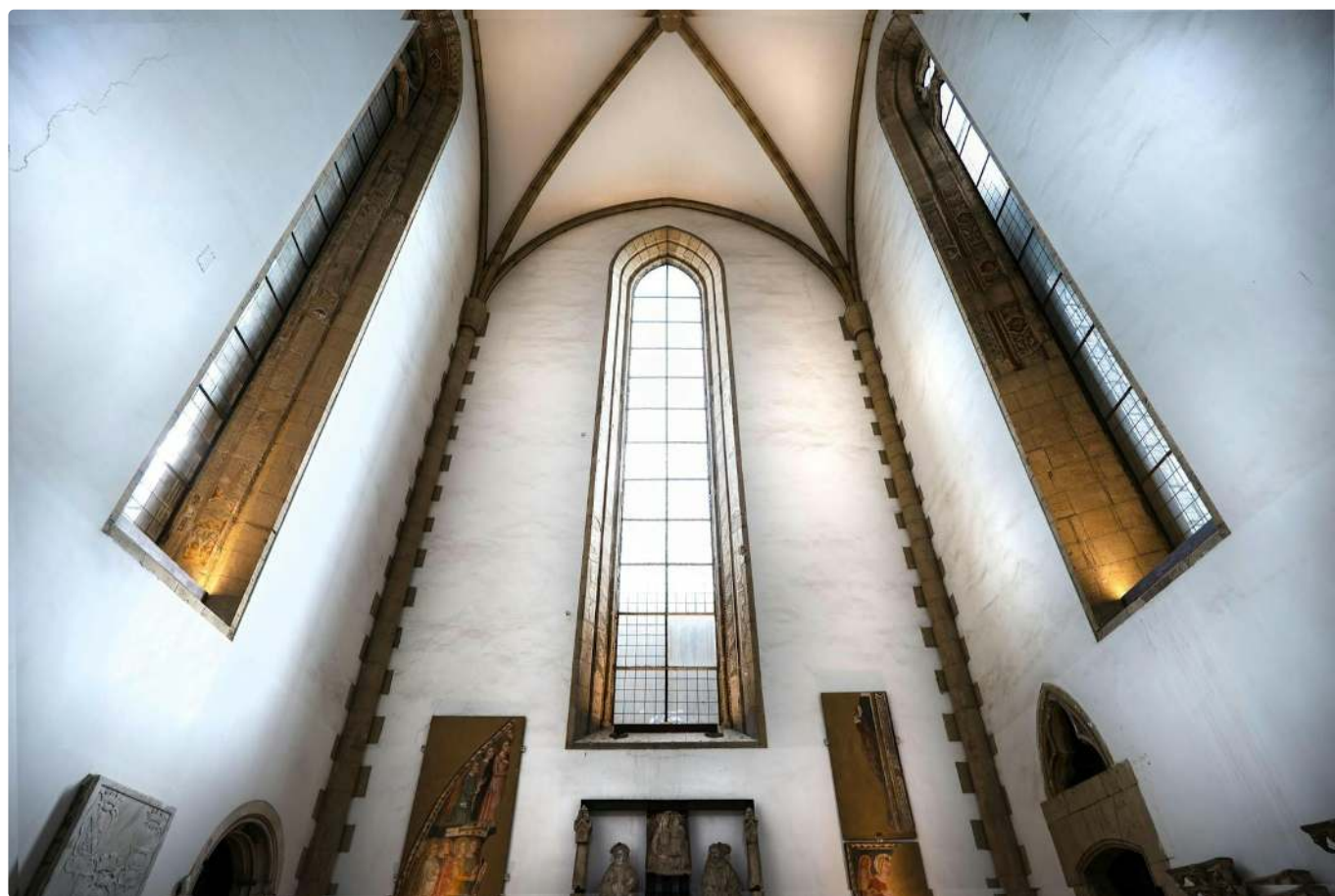
LOCALISATION

Où se trouve カステル・ヌオーボ？



📍 Via Vittorio Emanuele III – 80133 ナポリ

🌐 40°51.106' N, 14°16.087' E



組織

階層別に見る城の構造

レベル0（地上階）

入り口には、アルフォンソ5世の凱旋を祝う壮麗な凱旋門があります。スペイン彫刻家による精巧なレリーフが飾られています。内部に入ると、武器庫だった部屋や、市民博物館の展示室があり、古代から中世までの考古学的発見品が収蔵されています。

レベル2

ここには、最も重要なバロンズホール（諸侯の間）があります。ジョットのフレスコ画の痕跡が残る広大な空間で、1486年の陰謀の舞台となった場所です。天井の高いヴォールトと、歴史的な重みが漂っています。

レベル5（テラス）

城の最上部にあるパノラマテラスからは、ナポリ湾、ヴェスヴィオ火山、そして市街地全体を見渡せます。南西方向へ向かうと、火山とのコントラストが美しく、写真撮影に最適なスポットです。

アクセシビリティ

車椅子アクセス

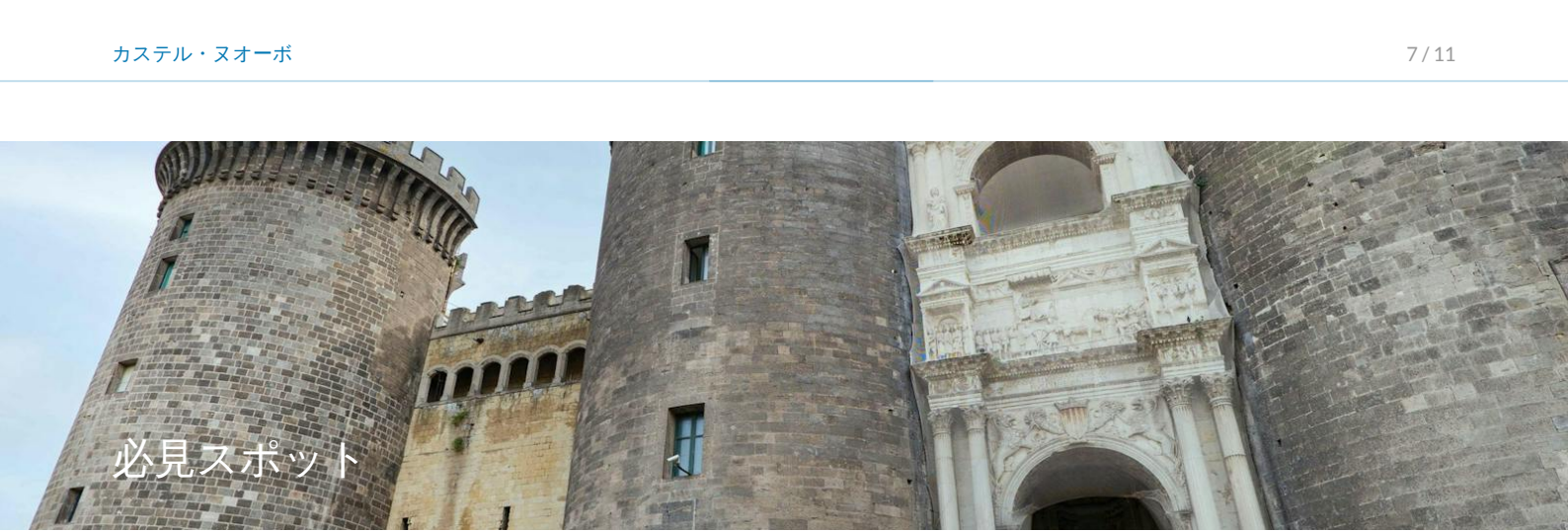
エレベーターでの部分的アクセス可能。上層階については事前に確認してください。

ファミリー向け

家族連れにも適していますが、階段のため快適な靴をご用意ください。

オーディオガイド

フランス語, 英語, スペイン語



必見スポット

選 択

見逃せない歴史的ハイライト

01

Sala dei Baroni

バロンズホール（諸侯の間）

城の心臓部とも言える広間です。ジョットによるフレスコ画の断片が残っており、古代英雄たちが描かれています。1486年にフェルディナンド1世が反乱貴族をここに集めて逮捕したというドラマチックな歴史の舞台です。

💡 この部屋の名称は、**1486年**の陰謀に由来し、王権の絶対性を示すための政治的演劇が行われた場所として知られています。

02

フランチェスコ・ラウラーナ Entrée principale

凱旋門

アラゴン朝アルフォンソ5世の入城を祝って建造された、イタリアで最初のルネサンス様式の凱旋門です。ペレ・ホアンとギョーム・サグレーラによる精緻な彫刻が施され、勝利と権力を象徴しています。

💡 この門は、単なる装飾ではなく、政治的プロパガンダとして設計され、新しい支配者の正当性を視覚的にアピールする役割を果たしました。

03

Terrasse panoramique

パノラマテラス

城の屋上からは、ヴェスヴィオ火山とナポリ湾の絶景が広がります。特に夕暮れ時、金色の光が火山と城壁を照らす瞬間は、訪れる者の心を揺さぶります。

💡 テラスからの眺めは、ナポリの地理的特徴である火山と海の共存を体感できる最高のスポットです。

04

Chambre de la démission

教皇辞任の部屋

1294年、教皇セレスティヌス5世がこの部屋で辞任を行いました。史上稀な出来事が起きたこの場所は、教会史において重要な意味を持ち、神秘的な雰囲気を漂わせています。

💡 セレスティヌス5世の辞任は、後にドストエフスキーの小説『白痴』にも影響を与えたと言われる、歴史的な転換点です。

05

Tour circulaire

円形塔

元々は角張っていた塔が、大砲の弾丸を跳ね返すために円形に改造されました。この建築的革新は、中世から近代への軍事技術の移行を示す重要な証拠です。

💡 円形の形状は、物理学の原理に基づいて設計され、敵の攻撃に対して最大限の防御力を発揮するように考えられていました。

06

Musée civique

市民博物館展示室

古代ローマ時代から中世までの遺物が収蔵されています。考古学的発見を通じて、ナポリの長い歴史とその文化的背景を理解することができます。

💡 展示されている一部の文物は、ポンペイやエルコラノの発掘現場からもたらされた貴重な品々です。

07

Chapelle palatine

宮廷礼拝堂

王族や貴族が使用していた礼拝堂で、宗教的な儀式が行われていました。聖バーバラに献堂されており、内装には当時の信仰心が反映されています。

💡 この礼拝堂は、軍事守護神である聖バーバラを祀っており、兵士たちの精神的支柱となっていました。

08

ジョット・ディ・ボンドーネ Sala dei Baroni

ジョットのフレスコ画痕跡

バロンズホールの壁に残るフレスコ画の断片は、ジョットの初期作品とされています。褪色していますが、その力強い筆致はまだ感じ取れます。

💡 これらの絵画は、ルネサンス美術の先駆者であるジョットの才能を示す重要な証言です。

アドバイス

快適な見学のためのコツ

TIMING

混雑を避けるため、午前10時30分まで、または午後4時30分以降の訪問をお勧めします。特にバロンズホールは静かに鑑賞したい場合に有効です。

PARCOURS

まずは地下階の博物館から始まり、中央のバロンズホールを経て、最後にテラスで景色を楽しむ順路がおすすめです。階段が多いので、体力温存を意識しましょう。

PAUSE

見学後、近くのサン・フェルディナンド地区のカフェで休憩するのが良いでしょう。城の周りは歩行者天国になっており、リラックスできます。

AUDIOGUIDE

オーディオガイドの利用は必須と言えます。特にバロンズホールの歴史やジョットのフレスコ画の意味を理解するには不可欠です。フランス語対応を確認してください。

BILLET

オンラインでの事前予約を強く推奨します。ハイシーズンや週末は現地での購入が困難になることが多く、待ち時間が長くなります。

PHOTO

テラスの南西側で、ヴェスヴィオ火山を背景に城壁を撮影すると、夕日の光が金色に輝き、最高の一枚が撮れます。

ENFANTS

子供連れでも楽しめますが、階段が多いため快適な靴が必要です。テラスからの眺めは子供たちにも人気ですが、博物館内は集中力が求められる場合があります。

CONFORT

ハイヒールは避け、歩きやすいウォーキングシューズを選びましょう。不均一な歴史的な床や階段があるため、足元の安定性が重要です。



よくある質問

よくある質問

カステル・ヌオーボのチケットは事前に予約する必要がありますか？

はい、オンラインでの予約を強くお勧めします。特にハイシーズン（7月～8月）や週末には必須です。時間枠はすぐに埋まるが多く、現地での購入は長い待ち時間を意味することが多いです。事前に予約することで入場が保証され、テラスを楽しむための最適な時間帯を選べます。

他の施設との組み合わせチケットはありますか？

カステル・ヌオーボとカステル・デッロヴォ、または王宮へのアクセスが可能な共通チケットがあるか確認してください。予算と時間の最適化のために、こうしたオファーが存在することがあります。予約時に利用可能なオプションを確認し、管理者が現在提供している組み合わせをチェックしてください。

オーディオガイドの料金はどのくらいですか？

オーディオガイドは標準チケットに含まれている場合が多く、含まれていない場合は追加料金（フルパックで20€前後）で利用可能です。ジョットによるフレスコ画やその場所の複雑な歴史を理解するために不可欠です。予約時に利用可能な言語を確認してください。フランス語が通常用意されています。

カステル・ヌオーボで絶対に見るべきものは何ですか？

フランチェスコ・ラウラーナによる凱旋門、ドラマチックな歴史を持つパロンズホール、そしてパノラマビューが楽しめるテラスは見逃せません。これら3つが体験の核心です。宗教美術愛好家には市民博物館も興味深いですが、視覚的なハイライトはやはりテラスです。

カステル・ヌオーボの見学にはどれくらいの時間がかかりますか？

博物館、歴史的なホール、テラスを含む完全な見学には約1時間半から2時間目安としてください。もし建築やフレスコ画に特に興味がある場合は、さらに時間を確保してください。テラスとメインホールのみを見る場合は、より短時間で済みます。

ご存知ですか？

エピソード & トリビア

マスキオ・アンジョイーノの由来

ナポリの人々は古くからこの城を「マスキオ・アンジョイーノ」と呼んでいます。これは「アンジューの雄」を意味し、創設者であるシャルル1世の力強さと、ゴシック様式の重厚な建築スタイルを象徴しています。

ジョットの初期パトロネージ

1330年頃、巨匠ジョットがパロンズホールを装飾したのは、ルネサンスが完全に開花するずっと前です。これにより、カステル・ヌオーボは初期の芸術支援の中心地として歴史に名を残しました。

教皇辞任の密室

1294年12月13日、セレスティヌス5世はこの城の一室で辞任しました。この出来事は教会史において極めて稀なケースであり、城の壁に深く刻まれた秘密となっています。

大砲対策の建築革新

15世紀のアラゴン朝期、四角い塔が円形塔に置き換えられました。これは大砲の弾丸を跳ね返すための戦略的改修であり、城を近代的な包囲戦に対応させる重要なステップでした。

博物館周辺

城の周辺は、ナポリの中心部であるサン・フェルディナンド地区に位置し、歴史的建造物が密集しています。すぐ隣にはナポリ王宮があり、王家の贅沢と軍事要塞の厳粛さの両方を楽しむことができます。少し歩けば、世界最古級のオペラ劇場であるサン・カルロ劇場も見学可能です。食後は、プレビシート広場でのんびりコーヒーを飲むのがおすすめです。また、港沿いを散歩しながらカステル・デッロヴォを目指すのも、美しい夕暮れ時ならではの贅沢な過ごし方です。



カステル・ヌオーボは、単なる観光地ではありません。それはナポリの生きた記憶そのものです。石の一つひとつが語ろうとする物語に触れ、テラスから広がる絶景に心を奪われるとき、あなたは過去と現在をつなぐ特別な体験を手に入れることになります。ぜひ、この城の鼓動を感じに来てください。